おんがく広場　第97号
Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい　令和2年(2020)4月10日創刊
令和2年(2020) 10月8日(木)
発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一
連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

動き出した合唱活動
正しく恐れることが大切！

米国の大統領が新型コロナウイルスを軽視した結果、自身が感染し多くの批判が出ています。このウイルスの正体がまだはっきりしない以上、三密を避ける対策はこれまでと同様続けるしかありません。

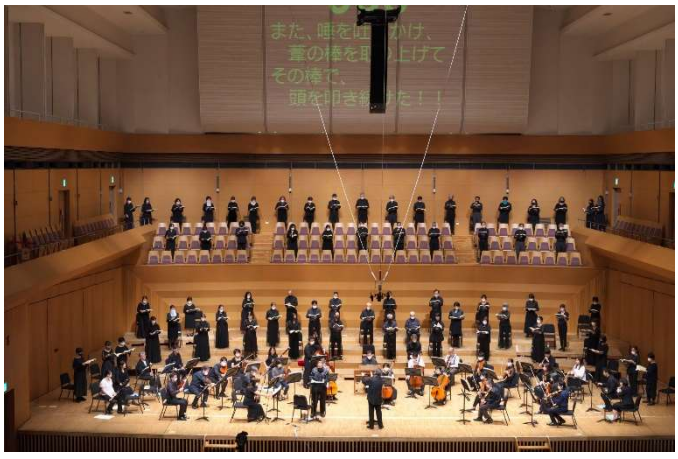
そういう中でも少しずつ「Go To……」のようないろいろな活動が動き出し、それに伴って何が危険かという知見も増えてきました。合唱活動も対策を取りながらの練習再開や実験的な演奏会、非公開の演奏会などが各地で始まり、新たな日常に向けて一歩を踏み出してきました。

取材力がないため限られていますが、いくつか紹介します。

演奏時のマスクは必須！

10月4日、**大阪ハインリッヒ・シュッツ室内合唱団**の京都公演が京都府立府民ホールで開催され、好評を博したようです。2階席は閉鎖、座席はセンターブロックのみ、オリジナルのマスクを着用、シアターピースでは歌い手が客席へ降りても十分な距離を確保していたようです。

同じ日に、**ソニーフィル合唱団**と**マーキュリー・バッハ・アカデミー**がマタイ受難曲全曲の非公開試演会を杉並公会堂大ホールで開催しました。練習が再開されたのは6月からでした。



参加人数も110人から68人に減少、間隔を空け、マスク着用で、換気休憩を2回取っています。

歌劇〈幕臣・渋沢平九郎〉合唱団は5月の上演予定を来年2月に延期しましたが、9月末からようやく練習を再開しました。練習会場入り口で非接触型検温器による体温測定、アルコールによる手指消毒、窓と廊下側ドアを開け、換気装置をフルで稼働して換気しています。

歌い手はマスク着用、指揮者はフェースシールド着用し、十分な距離を保って歌っています。これから冬に向け寒さ対策をどうするかも問題になります。

東北大学混声合唱団は12月の演奏収録会に向け10月から練習をマスク着用で再開しました。パート別に日を分けての練習です。

男声合唱団コール・グランツは、10月から練習を再開しました。幸いにも使用している会場が広いので、距離は十分に確保できています。マスクは必須、途中換気休憩を挟んで3時間ほど練習しています。当分本番がないので、発声練習などに力を入れることができています。

杉並学院グリークラブでは、歌唱力向上、レベルアップに重点を置いて練習を再開しています。換気の徹底、手指の消毒、パート毎の少人数での練習や対面で歌わないなど感染対策を行っています。この合唱団は現役高校生と卒業生で構成するちょっと珍しい男声合唱団です。

男声合唱団メンネルA.E.C.は、7月末に練習再開したものの、練習会場の確保が難しく不定期練習になりましたが、一生懸命取り組んでいます。マスクの形は各自工夫し新たな気持ちで歌っています。

メンネルコールありの実は、市販の合唱用マスクを着用して練習を再開しました。検温、消毒、換気、ソーシャルディスタンスの確保、それでも心配なメンバーには参加を強要しません。6月にパート練習スタート、8月に100名収容可能な研修室で全体練習が再開できました。

皆様の合唱団では演奏活動は再開されましたでしょうか。情報をお寄せください。閉塞感に潰されそうになるかもしれませんが、全国の合唱人が動き出したことで少しでも前向きになれるといいなと思います。